

担う人材

2020年6月 就農予定
前田 匡彦 さん (37歳)

《営農状況(予定)》
地区：木綿畑
種別：酪農
規模：35頭



僕が憧れた農家の姿。
今度は自分が
憧れの存在になりたい。

これからを

ひとり、またひとり、離農者が。
何とかしないといけないなど。
それだけです。



2018年 就農
平山 岳夫 さん (42歳)

《営農状況》
地区：関谷
種別：稲作
規模：3ha

何とかしたい

就農する前は、実家の肥料屋で働いていました。仕事上、お客さんは農家の皆さんだったこともあり、以前から農業に興味がありました。農家の皆さんと接しているからこそ実感したのは、離農者が増えていること。そんな現状が就農を決意するきっかけになりました。

農家の皆さんとお付き合いがあったとはいえ、私自身は農業未経験だったので、「本当に自分が農業者としてやっていけるのか」「作物がきちんと育つのか」など不安もありました。でも今思えば、私は非常に恵まれた環境でスタートできたと思います。土地や農機具など、営農に必要なものは知り合いの農家さんにも協力して見つけてくれましたし、農機具にトラブルが起きれば、まずは農機具屋じゃなくて近隣の農家さんに頼ることができました。就農してからは、鳥獣の被害を受けるなど大変なこともありましたが、もっと早く就農すればよかったと思うくらい楽しい毎日を送っています。

中学生のころからの夢

僕が農業に興味を持ったのは保育園の芋ほり体験がきっかけでした。一見何もない畑からこんななおいしいものが出てくるなんて、宝探しみたいな体験ですよ。そのときの農家のおじさんが、かっこよく見えちゃって。「いつか自分も農家のおじさんになりたい」と、漠然とした夢を持っていました。

その漠然とした夢が具体的に「酪農家」に変わったのは中学生のときです。進路相談で先生に「農家になる夢を伝えたところ」「酪農って知ってるか」と。その先生は酪農家になるか教師になるか迷った経験があったそう、僕に酪農の魅力を伝えてくれました。

両親も僕の夢を理解してくれ、農業関係の専門学校へ。卒業後は市内の牧場に就職しました。もう14年前のことですね。就職後も、いつか自分の牧場を持ちたいという夢は常に持ち続けていたので「独立するなら30代」と思い、昨年就農を決意しました。

目標は「地域の担い手」

私の地域でも、現在営農している人の高齢化が進んでいて、後継者がいない人もいます。いつかバトンタッチをするその時に、地域の担い手となっていられるように頑張っています。

専業農家になるハードルは高いかもしれませんが、兼業農家としてでもできる農業はたくさんあると思うので、農業に興味のある人がいればチャレンジしてみたいですね。

子どもたちの教育牧場を

いざ自分の牧場を持つと決めてからは、物件探しや事業計画作成、融資の相談など大変なこともありましたが、でも、すべて自分で決定し、幼いころから夢見てきたことがどんな形になっていくこの状況は、会社員では味わえないワクワク感があります。

今年の6月ようやく営農できるまでになりました。牧場は、子どもたちの教育の場にもしていきたいと思っています。牛は生き物です。命を扱っている牧場だからこそ、子どもたちに伝えられることがあると思います。食や命の教育を通して、「農家のおじさん」に憧れた、かつての自分のような子どもがいてくれたらいいな。そんな人の流れができる牧場にしていきたいですね。



やっと見つけ、借りられた居抜き牛舎。ここから前田さんの夢が始まる。



わが子を育てるよう
に営農しているという平山さん。まずは5haまで規模の拡大を目指している。